

保健体育科 学習指導案

日時 平成18年11月15日(水)5校時
学級 3年3,4組男子(3組20名 4組18名 計38名)
授業場所 3年3組教室
授業者 伊藤 展博

- 1 単元名 第4章 健康な生活と病気の予防
3. 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康 「薬物乱用と健康」

2 単元について

(1) 教材観

中学校指導要領第7節保健体育には、「第2 各分野の目標及び内容〔保健分野〕2 内容(4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、そのような行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それらに適切に対処する必要があること。」とある。

情報化社会に伴い都市と地方との格差がなくなり、地方である岩手でも容易に手に入れることができるといわれる薬物。社会が取り巻く情報や環境により、自分自身の判断基準の甘さや人とのかわりが稀薄になってきている現代。中学校現場の生徒たちを取り巻く状況も同様になってきている。薬物についての知識習得はもちろんのこと、自分自身を守ることについても考えさせ、実践する意欲を高めたいと思い本単元を設定した。

(2) 生徒観

進路に悩みながらも中学校生活最後の文化祭を成功させ、全校のリーダーとしての役目を終えた11月。次なる自分自身の進路達成に向かって、顔つきや態度が変わってきている。3年3,4組は活発で明るい生徒が多数いる。毎回の授業も元気に前向きに取り組む姿勢が見られる。まとまりも良く、グループ学習などは効率良く学ぶことができる。しかしながら、特定の生徒の言動によって低きに流れる傾向が見られる時もある。

事前のアンケートでは「薬物について知っている言葉を挙げなさい」という項目に、多数記入するなど、薬物に対する知識はある。「薬物がどんな効用があるのか、知っているだけ書きなさい」という質問には反応が見られない。しかし、「薬物」に関して学ぼうとする意欲が感じられるアンケート記入であった。

(3) 指導観

目まぐるしく変わる世界の中で、多様化して暗躍する「薬物」。「薬物」は青少年、特に中、高校生の覚せい剤事犯検挙人員は依然として高い水準にあり、また、薬物の入手可能性等の社会環境は改善されておらず、依然として厳しい情勢にある。

今回の授業導入では、視聴覚機器を使い実際の薬物や薬物によって受けるダメージ、使用してしまった人の証言等、具体的にイメージできるようにする。列指名等を利用し全員に発言を求め、薬物について考えさせながら意欲を喚起したい。

展開では薬物の知識だけでなく、薬物にどのような効用があり、薬物の現状、薬物乱用を防止するためにはどうすればいいのかまでをしっかりとつかませる。また、実際に断る具体的な方法も理解させたい。パソコンの画像を適時に利用し、薬物の害とたった一度きりの人生までをも壊してしまう怖さ。それ以上に薬物を使うまでの人間の弱さやそれに関わる人間関係という深い所までふれていきたい。また、ロールプレイを利用して、薬物防止に関しての正しい判断力を養う術を身に付けさせたい。

終末には、感想をしっかりと書いて発言することによって、自分がどのように行動していけばいいのか、より深い浸透を図りたい。

3 単元の指導目標及び評価計画

(1) 単元の指導目標

- ア 喫煙・飲酒・薬物乱用の実態に目を向け、それぞれが健康に及ぼす影響に関心を持ち、積極的に課題を解決し、健康な生活を築くための意欲を持つことができる。
- イ 喫煙・飲酒・薬物乱用が人体に与える害や、心の成長に与える影響について考え、未成年における喫煙・飲酒・薬物乱用防止について適切に判断する力を身に付けることができる。
- ウ 喫煙・飲酒・薬物乱用が、健康に及ぼす悪影響や恐ろしさを正しく理解することができる。

(2) 指導計画と評価計画

時	指導内容	指導のねらい	観点別評価規準		
			関	思	知
1	喫煙と健康	たばこの煙の中には、ニコチン・タール・一酸化炭素などの有害物質がふくまれており、喫煙は健康に害があることを理解させる。また、喫煙開始年齢が若ければ若いほど、病気や死亡の確率が高くなることを理解し、喫煙の防止について適切に判断できる力を身に付ける。			
2	飲酒と健康	酒の主成分であるエチルアルコールは、脳や神経のはたらきを低下させ、大量の酒を急激に飲むと急性アルコール中毒を起こし、急死することもあることを理解させる。酒には効用もあるが、習慣的に大量に飲み続けていると、さまざまな器官に障害があらわれたり、アルコール依存症になることを理解し、飲酒の防止について適切に判断できる力を身に付ける。			
3 本時	薬物乱用と健康	シンナーの主成分であるトルエンは、脳や神経をまひさせ、知覚異常や幻覚、さらには意識を失わせ、死にいたらせることを理解させる。依存症薬物の使用は法律で厳しく規制されており、社会環境の浄化が必要であること。薬物乱用の誘いには、きっぱりと断る態度が大切であることを理解させる。薬物の多くは依存症が強いため、慢性中毒になりやすく、全身の器官に障害をきたし、人格に悪影響を及ぼすことを理解し、薬物防止について適切に判断できる力を身に付ける。			

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ア 薬物乱用の実態に目を向け、薬物乱用が健康生活に及ぼす影響に関心を持ち、積極的に課題を解決し、健康な生活を築くための意欲を持つ。【関心・意欲・態度】
- イ 薬物乱用が人体に与える害や、心の問題に及ぼす影響について考え、薬物乱用防止について、適切に判断する力を身に付ける。【思考・判断】
- ウ シンナーの害や薬物乱用が、健康に及ぼす悪影響や恐ろしさを正しく理解する。

【知識・理解】

(2) 本時の評価規準

観 点	評価規準	具体的評価規準と支援		C 努力を要する生徒への 指導の手立て	評価場面 (方法)
		A 十分満足できる	B 概ね満足できる		
関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	薬物乱用の実態に目を向け、薬物乱用が健康生活に及ぼす影響に関心を持ち、課題を解決し、生活を築くための意欲を持つことができる。	薬物乱用の実態に目を向け、薬物乱用が健康生活に及ぼす影響に関心を持ち、積極的に課題を解決し、健康な生活を築くための意欲を持つことができる。	薬物乱用が健康に及ぼす影響に関心を持ち、健康な生活を築く意欲を持つことができる。	薬物乱用が健康に及ぼす影響について、絵図等を駆使して関心、意欲をもたせる。	導入場面 (発表)
思 考 ・ 判 断	薬物乱用が人体に与える害や、影響について考え、薬物乱用防止について、適切に判断することができる。	薬物乱用が人体に与える害や、心の問題に及ぼす影響について考え、薬物乱用防止について、適切に判断することができる。	薬物乱用の心に及ぼす影響について考え、薬物乱用防止を適切に判断することができる。	薬物乱用の心に及ぼす影響についての判断力を絵図等を駆使して身に付けさせる。	授業展開 (ロールプレイ)
知 識 ・ 理 解	薬物乱用が、健康に及ぼす悪影響を正しく理解することができる。	シンナーの害や薬物乱用が、健康に及ぼす悪影響や恐ろしさを正しく理解することができる。	薬物乱用が健康に及ぼす悪影響を正しく理解することができる。	薬物乱用が健康に及ぼす悪影響を絵図等を駆使して理解させる。	まとめ (発表)

(3) 研究内容との関わり

ア 本時の基礎・基本

- 自他の健康や安全を考えながら、活動に取り組むことができる。【関心・意欲・態度】
- 薬物乱用防止について理解し、適切に判断することができる。【思考・判断】
- 薬物乱用に関する事項を理解することができる。【知識・理解】

- イ 定着を計る指導の工夫
 - 音読...復唱による学習課題の確認。
 - 転写法...発言や復習による学習内容の想起。
- ウ 動機付けの工夫
 - 視聴覚機器の活用。(ビデオ・プロジェクター)

(4) 展開

段階	学習内容・学習活動	指導及び支援の手立て 指導の留意点 支援	評価の視点 具体的評価規準 (評価方法)	研究内容 との関わり
導 入 15分	1 学習準備	イメージ図から、実際の薬物がどれか予想する。 パソコンイメージ図から「薬物」実物をつかませる。	【関心・意欲・態度】 A 薬物乱用の実態に目を向け、薬物乱用が健康生活に及ぼす影響に関心を持ち、積極的に課題を解決し、健康な生活を築くための意欲を持つことができる B 薬物乱用が健康に及ぼす影響に関心を持ち、健康な生活を築く意欲を持つことができる。(発表)	音読 動機づけの工夫
	2 学習課題の提示	パソコンで提示することにより、具体的に理解できるように声がけをする。		音読
薬物の怖さを知り、これからの生活や行動に活かそう！				
展 開 25分	3 課題の確認	パソコンイメージ図から「薬物の影響」をつかませる。 薬物の体への影響を具体的に説明し、意欲を喚起する。 「薬物乱用の現状」を理解させる。 薬物乱用によって、人生を台無しにした話を語り、薬物の怖さを理解させる。	【思考・判断】 A 薬物乱用が人体に与える害や、心の問題に及ぼす影響について考え、薬物乱用防止について、適切に判断することができる B 薬物乱用の心に及ぼす影響について考え、薬物乱用防止を適切に判断することができる(ロールプレイ)	音読 動機づけの工夫 動機づけの工夫 音読
	4 課題の解決	パソコンイメージ図から「薬物乱用の防止」について、適切に判断できるよう指導する。 ロールプレイを活用し、薬物からの誘惑を適切に判断し、断る方法を理解させる。		動機づけの工夫 【有能感】
終 末 10分	5 まとめ	本時で学んだことを学習プリントにまとめさせる。 考えたことを発表させる。	【知識・理解】 A シンナーの害や薬物乱用が、健康に及ぼす悪影響や恐ろしさを正しく理解することができる B 薬物乱用が健康に及ぼす悪影響を正しく理解することができる(発表)	転写法 【有用感】